

(和文仮訳)

第3回開発資金会議 (FfD) サイドイベント  
「中所得国の持続可能な開発のための包摂的パートナーシップによる効果的な協力」  
城内実外務副大臣主催者代表挨拶  
2015年7月14日 アジスアベバ

セツ・エマニュエル・テペ ガーナ財務大臣閣下、  
ニュービー・クムウェンベ マラウィ財務・経済計画・開発大臣首席大臣秘書官、  
ファン・マニュエル・バジェ メキシコ国際協力庁長官、  
御列席の皆様

共催者であるメキシコ政府及び「効果的な開発協力に関するグローバル・パートナーシップ (GPEDC)」と共に、本サイドイベント「中所得国の持続可能な開発のための包摂的パートナーシップによる効果的な協力」に御出席の全ての皆様に心より歓迎します。

グローバル化の進展に伴い、開発途上国が直面する開発課題は多様化し、またこれまでになく複雑化しています。つい十年前に低所得国だった国を含む中所得国もまた根強い貧困、経済・社会的格差、災害や気候変動に対する脆弱性、そしていわゆる「中所得国の罫」といった問題に直面しています。経済レベルのみによって中所得国の状況を判断することは、これらの課題を見逃してしまいかねません。

我が国の開発協力大綱にも明記されているとおり、我が国は、開発途上国の個々のニーズ及び特性を踏まえ、また変化し続ける情勢に柔軟に対応しながら戦略的かつ効果的な協力を行っています。これを踏まえ、我が国は、質の高い成長のための包摂的な開発プロセスを通じ、誰一人取り残されない社会の創造に貢献する考えです。

この目的を達成するための中所得国との効果的な協力には、人材育成、ビジネス環境整備及び改善、そして人間の安全保障の理念に基づいた支援が必要です。我が国の支援と開発途上国自らによる弛まぬ努力は、能力開発、ガバナンス改善、そして経済及び社会的インフラ開発を通じて良い成果をあげてきています。また、ポスト2015年においては、特に我が国の経験に基づく防災等における強靱性強化、気候変動対策及びクリーンエネルギー開発を通じた持続可能な社会の創造を目指した取組を含めて協力していきます。

FfD 交渉において、我が国は人間一人ひとりを重視し社会において最も脆弱な人々が直面する多様な課題に対応することの必要性を一貫して訴えてきました。一人当たり国民所得のような基準は、国レベルの開発協力を検討する上で有益な参考情報となる一方、地域レベルの人々の真のニーズも同時に見ていく必要があります。この点は、中所得国における開発ニ

ズを考える上では特に重要な点です。我が国は、アジスアベバ行動計画の最新ドラフトにこの視点が反映されることに貢献できたことを嬉しく思います。

中所得国が直面する課題の国際的な議論に貢献することを目的とし、我が国は UNDP に委託し、「中所得国における開発協力の役割」に関する調査を行いました。本調査は、我が国の GPEDC への貢献として実施したものです。本調査においては、包摂的な開発プロセス支援や変化し続ける状況に対応できる人材の育成、そして構造転換・変革のための動機づけなどを通じ、中所得国が持続可能かつ質の高い成長を遂げる上で、開発協力が触媒的な役割を果たしうるということを明らかにしました。本日、UNDP のソリマン局長によって報告される本調査の結果が、中所得国におけるポスト 2015 年開発アジェンダの達成に向けた取組に対し有益なインプットとなることを期待しております。

我が国は、60 年間に及ぶ政府開発援助実施の経験をもとに、今後も効果的な開発協力に関する国際的な議論を主導していく考えです。これに関連し、我が国は本年 8 月より、韓国から引き継ぐ形で GPEDC の運営委員に就任することを発表します。これまで韓国が GPEDC において重要な役割を果たしてきたことに敬意を表します。

我が国は、パートナーシップにおける包摂性が GPEDC の最大の利点及び強みであると考えています。我が国は、三角協力、革新的な民間協力のメカニズムなどにより、新たな開発主体とのパートナーシップを一層強化するためのアウトリーチ活動を通じ、GPEDC へ貢献したいと考えております。

最後に、御出席の皆様にご挨拶を申し上げますとともに、有益な議論が行われることを期待します。